

キャラクター名
松波 燃 (まつなみ もゆる)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	スープカレー屋さん
	サラマンダー					
オプション			年齢	33	性別	男
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	32	%
出自	天涯孤独	経験	裏切った	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	4	1	2			7	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC			交渉		
回避	2		知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
白熱	白兵	7r+6	4	6		侵3 素手データ変更 攻撃力LV+5
氷の回廊		0				侵2 飛行状態戦闘移動 距離+2m
白熱 (100↑)	白兵	7r+6	4	7		
氷の回廊 (100↑)		0				距離+4m

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: UGN幹部					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
戦闘用人格 ザタエルP		N			
氷雨 将	P 友情	N 恐怖			
テレーズ	P 信頼	N 嫉妬			
スカードネイル	P 執着	N 憎悪			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	6	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C:サラマンダー	2	2						
効果: C値-LV(下限値7)								
白熱	1	3	マイナ	至近	自身	自動		
効果: 素手データ変更								
結合粉碎	1	4	Xジャー	-	-	対決	ピ17	
効果: D+LV、装甲値無視								
クロスバースト	5	4	Xジャー	-	-	対決	80↑	
効果: 攻撃力LV*4、ダイス-2								
氷の回廊	1	2	マイナ	至近	自身	自動		
効果: 飛行状態で戦闘移動、距離+LV*2								
炎の理	1		Xジャー	至近		自動		
効果: 炎を作り出す(ノダメージ)必要なら<RC>								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

テンション高めで落ち着きのないN市支部長。スープカレー屋「ウィル・オ・ウィスプ」店主。言動が33歳に見えない。支部長とは思えない。2つのこぶしに熱気と冷気を宿し、誰よりも前線に出て闘う。気分が高揚しすぎると、唐突にテンションが反転し、冷たい別人格が現れる。

仲間を大切にしている。部下や仲間たちには手を発火させてスープカレーの器をアツアツの状態を持ってきてくれるよ。

15歳の頃、デパートの爆発倒壊事故に巻き込まれる。その中で、事故に巻き込まれた同い年くらいの子供たちが、悪意のある研究者によって実験施設に送り込まれてしまう。研究者は、オーヴァードの力を持たせるにふさわしい者を選ぶために子供同士で争わせた。当たり前のように死者がでる地獄のような空間が嫌になった燃は、同じ境遇の中でできた友人に心中を持ちかける。しかし、ギリギリのところまで死ぬことが恐ろしくなってしまった燃は、死に損ない、友人だけが死んだ。最終的には、皮肉にも燃だけが生き延び、研究者によってサラマンダーの力を持つ人格を与えられた。

研究者を燃やし、荒れ散らかしているところをUGNに保護される。痛ましい記憶を心の奥深くに封印することで、人並みの生活を得た。友人が遺した「来世で会えたら、2人で人を笑顔にする料理屋でもやろう」という言葉が無意識の中に残っており、周りの助力の末、スープカレー屋を始めた。

つらいことを忘れさせてやろうという周りの配慮か、自身の実力か、それともただの偶然か。現在は支部長の椅子に座って忙しい日々を送り、昔のことを思い出すことなく平和に過ごしている。